

## 本莊神社のケヤキ

(戦災遺蹟)を見学

監事 浅野晃一郎

戦争の事を学びたいと、岐阜市立岐阜清流中学校三年生が、令和五年六月二十九日(木)に、本莊神社へ来てくれました。

この日はあいにくの大雨で心配しましたが、五グループに分かれ、早田からバスを乗り継ぎ五十名が来てくれました。

## 傷痕から知る 当時の悲惨さ



浅野さんの話に関き入る生徒たち 岐阜市教務部の本莊神社で(一部関係者)

岐阜清流中生 市内の戦災遺跡巡る

ケヤキは、焼夷弾で一部焼け

た後、傷を塞ぐ形で成長し、当時直経四十センチの大木に育ち、そのケヤキに付けたプレートには、「この樹は、昭和二十年七月九日の空襲のために大きな傷を負いました。このようなことが再びないように平和な世界をさずきましょう」と記されており、この事を更に詳しく知りたいと本莊神社まで出かけてくれたのです。

見学に来た生徒の中には、焼けた傷をさわったり、他の部分と比較して感想をつぶやいていました。この六月前後は、戦争の記事が新聞によく掲載されるので、多少の参考になりました。

当日は、神社の役員も参加して下さり、大助かりでした。生徒の質問も中々のもので、「戦争のことは学生時代に聞かれましたか」と。顧みると、小中学生時代に戦争のこ

とは聞いた記憶が無く、現職の教員時代も中々触れることがありませんでした。

また、「戦争当時の食事はどんなものでしたか」、「早田地区、則武地区は空襲の被害がありましたか」、「戦争当時の楽しみはどのようなものがありましたか」など…。

戦後、八十年が経過し、戦災復興から日本の国づくりをして下さった先人たちに感謝し、伝えて行くことの大切さを改めて感じました。今回のチャンスに出会い、本莊地域のこと、岐阜市近辺のかかわり等を調べることが出来、有難かったです。

最後に、このプレートが、本莊神社へ寄ってくださるきっかけとなったことに感謝したいと思います。境内全般を見回して、自慢できる数々の場所、記念碑、しあわせ祈願の宮花壇など、更に充実させて多くの参拝者に足を運んでいただくためのきっかけづくりにも今後も努めていきたいと思えます。

